

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2016年11月1日 158号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



大空を悠然と飛ぶズグロハゲコウ

レダ基地の11月



マンゴーの実が急速に大きくなる。



雨後、一斉に開花するタマスダレ。



アメリカチョウゲンボウの巣立ちの日。

雨季が来て、夏の花が咲き、マンゴーの実が重くなり、若鳥が巣立つとき

チャコ地方における本格的な雨季は、例年十月中旬から十一月上旬に始まります。水源地アンデスの山々から遠く、緩やかに流れるパラグアイ川は、レダ基地辺りでは水位が下がる季節に当たります。雨は渴いた地をみるみるうちに緑にします。生命の水が植物を育み、植物が虫、鳥、獣たちを育み、さらにそれらを食べる魚類や、食物連鎖上位の生きものまで、旺盛な生命活動を展開します。その自然界の生命力に圧倒されるか、賢く活用するかは、私たち人間次第です。

豊水期に川や入り江だった水域の一部は、渇水期になると本流から孤立します。そこには脱出しそびれた多くの小魚たちがひしめき合い、涉禽類たちの格好の採餌場になります。ズグロハゲコウ、アメリカトキコウ、ベニヘラサギなど、大型の鳥類が大挙して飛来し、魚を漁る様は壮観です。カマドドリの風雨をしのぐ巧みな巣作り、空中で虫を捕食する各種タイルンチョウ、青灰色の翼を持つサヤカの歌声など、バードウォッチャーならずとも魅せられずにはいられない季節です。赤い花の眩しいチバト、明朗な黄のジュビア・デ・オロなど、マメ科の木々が満開になるのもこの季節。川辺を歩いて、草原を訪ねても、植樹園を散策しても、花園の広がる十一月のレダ基地です。川の魚は繁殖期に入るので獲れませんが、レダ基地には養殖の美味しいパクーがあります。大きなマンゴーやグレープフルーツの熟れるのも、この時季の大きな楽しみです。(四面に関連写真があります)

紅屋氏と中村氏がレダ基地に出発！

十月十一日、紅屋佑一氏(71)と中村嘉夫氏(70)が、成田空港より、レダ基地に向けて元氣よく出発しました。両氏は今後一年間、レダ基地のスタッフとして、パンタナール開発プロジェクトに携わります。



●紅屋(写真左)四か月ぶりにレダ基地に行きます。といっても、前は今回のための心の準備であつたように思います。中田先生のご期待にどこまで応えられるかわかりませんが、まずは、中村さんとアスンシオンまでの旅の出発です。そして、一年間を決意しています。送り出すために、様々に準備していただきまして、助かりました。どこまでできるかはわかりませんが、行く以上は、為に生きる精神で、精一杯頑張ります。

●中村 いろいろと出発の手配をしていただけたこと、嬉しく思っています。とにかく初めてのことで、行ってみないと分からないというのが正直なところ。パンパンに詰めたカバンを二個持って行きます。ペンチやナイフなど、簡単な道具となるものが必要と思います。いくつか準備しました。また現地に着いてから、報告します。(成田空港にて)

今レダ基地では

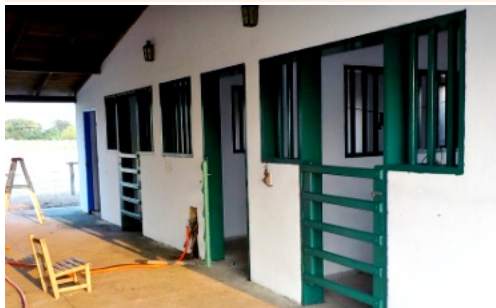
本棚作り ディアナの学校に八個の本棚を贈るため、水落さんが寸暇を惜



休み時間も惜しんで作業に専念。



厩舎の窓と屋根を青く塗りました。



厩舎の内部は濃緑色に塗装しました。

養殖池でバクーの移動作業



しんで作業中。美しく堅牢な本棚を作っています。養殖 バクー養殖プロジェクトの拡大計画に基づき、第九の養殖池から約二百四十四匹のバクーを、隣接する第八の養殖池に移しました。今後第九の池は、二〇一六年生まれの稚魚を育てる池として使われます。青年の土佐君と奥迫君も養殖業務を手伝っています。

厩舎 保守と衛生管理のため、再塗装を施しました。木窓は水落さんが堅牢に製作し、耐水ペンキが塗られて、見た目にも大変美しくなりました。厩舎は牧畜のために大切な施設ですが、ゲストが訪れる乗馬を楽しむ場でもあります。

新食品の開発

小橋氏がレダ基地に来て開発した、美味しい豚肉ソーセージ、ピラニアソーセージ、バクーのかまぼこなどは、これまでパンタナール研究所を訪れた、舌の肥えた数多くのVIPたちを喜ばせてきました。



厨房のスタッフに新食材の調理法を教える小橋氏。

さらに今後の市場展開に備え、レダをめぐる川と野と畑の産物を原料に、新しい食品の開発に余念がありません。また製法や利用法を普及させることで、地域住民の食生活の改善や、地場産業の育成にも期待できます。

モリンガパウダー アスンシオン在住のメンバー、

オトマー・グラムル氏が、モリンガの新式パウダーを開発しました。モリンガは「奇跡の木」と呼ばれるように、栄養素を豊富に含みます。苦味はなく、ご飯にふりかけても美味しいそうです。



タロイモの肉じゃが風煮込み



タロイモの水餃子

第16回国際協力青年奉仕隊員の感想文(続き)

●村の子供たちは、本当に可愛かったです。物もあまりなく、遊び方もあまり多く知らない、私たちは地理も文化も正に逆でした。ここに来なければ絶対に知らなかったことです。縄跳びを教えてあげました。彼らはルールを知らなかったもので、言葉の通じない中で手本をやって見せました。手本通りにならなかったのは、順番を守ること、入る方向、タイミングでした。ここで気がついたのが、遊びながら学んでいた自分の子供時代、日本の文化の素晴らしさでした。順番を守ることがなぜ必要なのかを、縄跳びを通じて、人を育てる立場からの大切さや意味を悟りました。本当に、少しずつ、中には最後の最後になって、初めてみんなが順番を守っていくということ



手と手を合わせる手押し相撲。

遊ぶほどに楽しくなって大人気の大縄跳び。

を達成しました。こんな簡単な遊びの中からも大切なことを拾えたことは感謝です。子供たちは本当に可愛く、また会いに行きたいです。(男性)

●ディアナ村の方々は始め、話しかけることそのものが気後れしてしまっていました。でも、共に作業に取り組んだり、遊んだりするうちに、「話をもっとしてみたい」「もっとこの人を喜ばせたい」と思えるようになってきました。私は人々の似顔絵を描きましたが、自分

レダを体験した青年は、今！ (第7回)

触れ合える自然動物園を作ることが夢です！



河野伊純さん 第15回国際協力青年奉仕隊員 専門学校動物看護師学科卒業、動物園飼育員経験 (かわのいすみ)

Q. いつからレダに行きたいと思っていましたか？

A. 中学2年生の頃、レダ開拓に携わった大西先生から、現地にいるカピバラとジャガーの話を知りました。日本の動物園で行われる飼育とパンタナールの野生生態とはかなり違うことなど、動物好きだった私には衝撃的な内容でした。それからずっとレダに行きたいと思っていました。

Q. 青年奉仕隊で強く感じたことは何ですか？

A. 「自分からアクションを起こさなければ！」ということです。特別な体験をしたいからと言って、ただ用意されたプログラムに参加するだけにとどまらず、「ここをしたいのか？」自ら主体的に動かなければならないと感じました。佐野先生は、言葉で「ああしろ、こうしろ」とは言いません。ただ黙々と率先して仕事をする後ろ姿から気付かされました。そして、自分から動いてみよう、レダでの休み時間、外に出て歩いてみると、伊達先生が犬の散歩をさせてくれたり、隣の家に連れて行ってくれたり、いろんなことを教えてくれました。とても嬉しい体験でした。

Q. パラグアイの人から学んだことはありますか？

A. バイアネグラで夜、しゃがんで犬をかわいがっていたら海軍の人から「危ないよ」と注意されました。それはどうやらアナコンダが来て襲うかもしれないから危ないと言うことでした。現地の子供たちと遊んだ時、「あそこにアナコンダがいる」とジェスチャーで教えてくれたのですが、私には全く見えませんでした。現地のことをよく知っているパラグアイの人から教わらなければ命取りになる、現地の人は大切だと思いました。

Q. 青年奉仕隊後、1年間どんな思いを持って過ごしてきましたか？

A. 自分が進みたい方向が明確になりました。動物に関わる仕事を通して、レダ開発に携わりたいと思っています。そのためにアルバイトしてお金を貯め、いろんな仕事を体験しています。また、生物分類技能検定の勉強をして専門性を高め、試験の準備をしています。来年、半年ほどレダに行き奉仕したいと考えています。広い大地で野生のまま暮らす動物を見て、触れ合える自然動物園を作ることが夢です。



似顔絵を食い入るように見つめる。



幼稚園の先生みたいに慕われて。

の描いた絵を見て笑ったり、友達と何か言い合ったりしている様子を見て、「絵を描いていて良かった」と心の底から思いました。また言葉が通じなくても思いを伝えられる力が美術にもあるということを感じました。

く感じました。できることなら、美術の世界をもって世界の子供たちを育くんで行ける私になりたいです。今回の訪問を通して、ディアナの子供たちが、可能性を広げ、さまざまな夢を持つきっかけになればと願います。またパラグアイの豊かで広大な自然は、大きな感動と神様の愛を感じさせてくれました。それは期待よりはるかに、素晴らしくも厳しい世界でした。ディアナまでの道の、熱く乾いた大地。しかし雨が降ると一変して一歩進むことも困難な泥土に。作物も育たない土地は、全く予想の外にありました。また身をもって寒い冬のパラグアイの過酷さを知りました。そんな環境の中でも逞しく生きている人々がいました。満天の星空や、広大なパラグアイ川、飛び交い鳴き交わす鳥や動物たち、雲や真っ青の夜空、青々と茂る植物たちは、神様の創造の力、大きな愛の力を感じさせてくれました。(男性)



まだまだ大きくなる巨果のマンゴー。生食はやや大味、ドライフルーツに適。



ウチワサボテンの一種



クジャクサボテンの一種



湿地を好んで咲く花



パイナップルの野生種



レダの雨季は渇水期と重なる。取り残された魚を目当てに渉禽類が群がる。



黄金の雨=ジュビア・デ・オロ
別名 アカシア・インペリアル



鳳凰木=チバト (Chivato)
別名 アカシア・ロハ

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行 (旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: asd-nsa.com

会員種別

◆ 会員一口1000円/月

◆ 特別会員一口1万円/月

◆ 法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名: シヤ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥ 入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局
office@asd-nsa.com
へお願いします。